

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有成分	文献	症例	適用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												口蹄疫	OIE 2007年3月15日、OIE Foot and mouth disease 2007年3月7日	701481に同じ
												ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 2442-2447	701481に同じ
151	2007/04/27	70150	日本赤十字社	新鮮凍結人血漿	新鮮凍結人血漿	人血液	日本	有効成分	有	有	有	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚労省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												感染	Blood 2006; 108: Abstract #4144	0.2mM S-303 (アクリジン化合物) および20mM グルタチオン(GSH)を用いた改良S-303処理法を用い、RBC中の細菌およびウイルス不活化の有効性を評価した。輸血に関連するグラム陽性菌およびグラム陰性菌、Vesicular stomatitisウイルス、Adenovirus 5、HIVおよびウシウイルス性下痢ウイルス(HCVのモデル)のいずれも改良S-303処理により効果的に不活化された。
												梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイト ネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天性梅毒の発生率は、1991年には100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
												マラリア	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグゼンサー島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月～6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。